



TOCHU SDGs REPORT

2030年に向けた取り組み

2024年度版



いつも砂夢 *THING NEXT "THE NEW!!"*

Always dreaming of sand to something next "the new!!"



この度、当社が取り組むSDGsに関するレポートをお届けできることを、大変嬉しく思います。持続可能な社会の実現という大きな目標に向け、私たちは日々努力を重ねています。このレポートを通じて、私たちの活動をより深く理解して頂き、共に未来を築くきっかけになれば幸いです。

2024年度の活動は、SDGs 各KPI目標の行動基準を固め、標準化に向けて取り組みを行った結果、担当部署から自ら取り組む姿勢が芽生えました。飛躍的に効果を上げているわけではないですが、自主性が備わったことで成功と失敗を繰り返しながら前に進む強さが生まれました。これも階層別教育として、2030SDGsゲーム研修を導入し、年間受講者目標の100名には届きませんでしたが、80名の方が学んだことも影響していると思います。

自主性の事例でもう一つ。本社ブロックでは、海岸清掃が始まりもうすぐ1年が経過しようとしています。トウチュウがある美浜町は、名前の由来でもある「美しい砂浜」がごございます。地域貢献の一環でもあります。目標14「海の豊かさを守ろう」にも繋がっている活動を、本社の従業員が自ら行動に起こしたことは、とても評価をしています。

次の段階として、トウチュウのSDGs 各KPI目標に対してマイルストーンを設定し、見える化を行い進捗管理を従業員全員で取り組みたいと考えています。全従業員が活動状況を把握できれば、課題が明確となり、「どこまで今期で達成できるか?」「どうすれば2030年までに目標達成できるか?」を共有できます。「ここまでやりきる」といった強い意志も芽生え、強い意志をもったメンバーが、周囲に波紋を興し、横展開され「うねり」となり、より強い組織となるこのような考え方をもち、2025年度のSDGsのKPI目標に取り組んで参ります。

株式会社トウチュウ 代表取締役社長 森田剛司

社訓

責任感

誠実

一致協力

経営理念

「品質至上で冠たる企業の創造」

常に自然環境との調和を保ち価値ある品を求めてこそ、

- ・ お客様の満足が得られ
- ・ 責任感と誠実さをもって、一致協力すれば、信頼され
- ・ みんなの幸せと企業の繁栄が得られる。

品質方針

源流からの品質保証に徹し、価値のある製品をタイムリーに提供することにより顧客の信頼に応える

- ①お客様は何に困っておられるのか、そのニーズを常に情報収集し、改善に繋がります
- ②お客様からのクレームには、何よりも最優先し、迅速に対応します
- ③クレームや不良品が発生しないように、品質レベルの向上に努めます
- ④協力会社を含めて、改善活動を行います
- ⑤関連する法規制を遵守することにより社会的責任を果たします

環境方針

当社が事業活動を行うに当たり、環境に関する規則、条例等の遵守と汚染の予防に努めます。又、事前活動及び当社が提供する商品に係わる環境影響を低減するため、環境目的・目標を設定し、計画的な実践と見直しにより環境マネジメントシステムと下記事項の継続的改善を推進します。

- ①環境負荷となる廃棄物の低減
 - ②生産の効率化によるエネルギーの低減
 - ③生産ロス追求による資源の有効活用
 - ④環境に配慮した商品の提供
 - ⑤工場立地条件を考慮した環境リスクの低減
- 尚、全従業員の環境意識を向上させるため、教育、啓蒙活動を積極的に推進します。



めざす姿

CO₂排出削減

2030年までにCO₂排出量▲30%（2018年比）を目指すことを目標とし、2024年までには具体的な削減施策を立案すべく、『排出量の見える化』と『再生可能エネルギー発電 電力活用』に向けた社内体制整備に主眼を置き取り組みを開始します。

活用資源

CO₂排出量削減推進委員会

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
7.2	2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる	再生可能エネルギー電力活用	5事業所 契約	～2028年
9.4	生産における省エネ活動の推進	製造におけるCO ₂ 原単位削減	年間 1%削減	～2028年
12.5	省エネ知識の啓蒙	SBTを含めたCO ₂ 削減勉強会 年1回開催	100%完了	～2028年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■再生可能エネルギー電力活用に向けた社内体制の整備 ※完了

亀崎工場 PPA活用 太陽光パネル設置について、設備投資委員会での承認を受ける
※最終的に土地所有者の許可を得られなかったため断念となったが、社内において再エネ導入が高まった

■電気/ガス設備の使用量見える化設備 ※2024年度 達成

中部電力ミライズの消費電力見える化システムについて、野間事業所 第二中子工場への導入検討を開始
投資金額の問題から、内製にて導入を進める計画に変更
中子第二工場では、内製により工程毎の製造におけるエネルギー量を計測し、生産量とで原単位を比較する計画を立てています

■CO₂削減勉強会の年1回開催 ※2024年度 達成

2030SDGsゲーム研修 5回実施(80名受講完了) ※自主性/自分事化の意識 醸成
中部電力ミライズ主催 省エネ法/温対法 及び 消費電力見える化勉強会1回 開催(27名受講)

Pick up!

CDPスコアレポート 気候変動2024



【トウチュウのCDPスコア】



【CDPスコアの平均値】



輸送機器グループ



アジア地域



世界平均

■2023年度と2024年度世界平均と比較

category (日本語)	トウチュウ 2024	トウチュウ 2023	世界平均 2024
企業統治	B	B	C
依存関係、影響、リスク、機会、プロセス	B	A	-
ビジネス戦略	B	B	B
環境政策	B	-	A-
状況、背景	B	-	B-
サプライヤーとの協力/顧客との関与/パートナーシップの構築	D	C	D
エネルギー	B	C	B-
目標	B	B	D
排出削減イニシアティブと低炭素製品	B	C	D
検証(排出量含む)	B	-	B-
リスク開示	B	C	A-
機会開示	B	B	B
scope1とscope2の排出	B	D	C
scope3	-	D	-

2023年より良化

2023年より悪化

※CDP(Carbon Disclosure Project)は、企業や自治体の環境情報を開示する国際的なNGOです。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



めざす姿

資源利用効率の向上

紙の製造には、水だけでなく多くのエネルギーを消費し自然環境にも影響を及ぼします。また、社用車に対してもクリーン技術を取り入れたFCEV、PHV、HV、EV車の導入を推進、自然環境保全にも取り組みます。

活用資源

経営サービスセンター

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
9.4	社用車へのFCEV、PHV、HV、EV車の導入推進	FCEV、PHV、HV、EV車への乗換	100%達成	～2030年
	ペーパーレス化の推進 ※2020年比 50%削減	IT化による紙資料の削減	—	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2024年度

社用車のFCEV、PHV、HV、EV等の導入状況について

乗用車両 **54.8%**
(前回比+7.2P)

※2024年度報告より、産業用車両のFCEV、PHV、HV、EV等導入は、KPI目標から取組を保留致します。
(産業用車両において、EVや水素を活用したエコ車両開発が遅れているため)

■2024年度

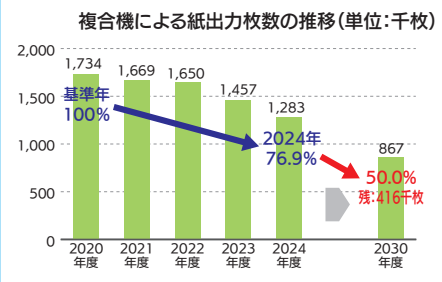
ペーパーレス化の進捗状況について

2024年度 **▲23.1%**
(前回比▲11.9P)
※基準年を2020年とし算定

Pick up!

ペーパーレス化

2024年度は、※基準年(2020年)と比較し、▲23.1%まで削減が進んでいます。2023年度との比較では、▲11.9%の削減となりました。ペーパーレス化の活動は順調に推移しており、十分目標が達成できるペースとなっています。事業所毎での進捗では、『温泉津事業所』が2024年度時点で目標達成。『本社』と『テクノセンター』が、2030年目標 達成まで2%を切っている状況となり、ペーパーレス化の目標達成に向け、牽引しています。現時点での課題としては、県外拠点(野間地区以外)の進捗が停滞している状況です。このため、2025年度は成果を上げている活動を全体的に均一化し、その効果を高めることを目指します。



社用車のFCEV、PHV、HV、EV化

社用車のFCEV、PHV、HV、EV化は、社内浸透が進み2023年度よりも3倍ほど導入が進みました。営業部の導入が目立っており、全体の32.2%の構成比となっています。また、営業開発部では、お客様へ提案する用品が、省エネルギーに繋がる商品を取り扱っていることから、社内で一番「環境」を意識しており、EV車の社用車導入も検討を開始しています。資源利用効率の向上は、『サーキュラーエコノミー』への取組に繋がっており、森林資源の保護に貢献。社用車のEV他への乗換についても、電池や部品のリサイクル可能性がある点について、良い取組とされています。2025年度についても引き続きエコカーへの乗換を進めて参ります。



めざす姿

環境に配慮した新しい製品開発

トウチュウは、鋳物用珪砂事業に取り組み『再生砂』の開発に成功。今後についても『いつも砂夢 THING NEXT THE NEW』を掲げ、環境に配慮した製品開発を目指します。

活用資源

技術開発部

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
9.4	環境に配慮した新しい製品開発	新しい製品開発	5点開発	～2030年
12.5				

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2024年度
環境に配慮した新しい製品開発

3点開発達成

※2030年までに5点開発目標

■2024年度
現在進行中の商品開発

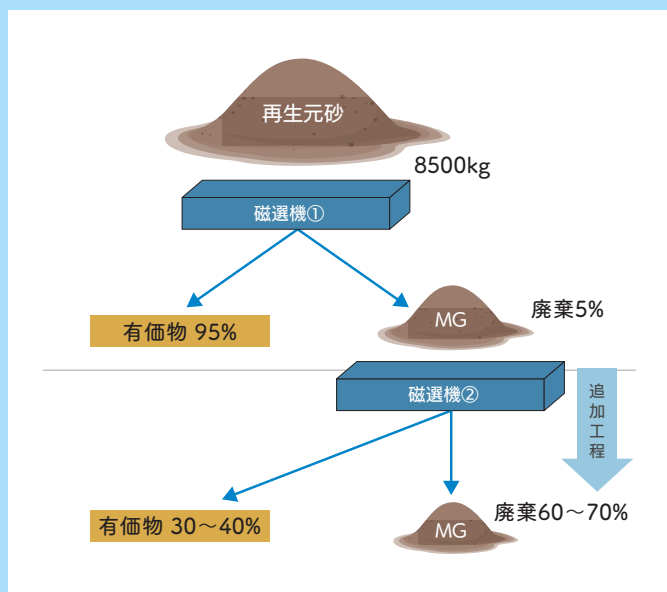
1点開発中

※2030年までに5点開発目標

Pick up!

環境に配慮した新しい製品開発

野間事業所と技術開発部とで、サーキュラーエコノミーにつながった活動を紹介いたします。
野間事業所では、今まで 磁性砂(磁石に反応する砂で、金属が付着していたりするもの)のほとんどを廃棄処理していました。その量は、月間 300tを廃棄していました。
廃棄物の削減のために、「磁性砂の再利用化」プロジェクトが立ち上がり、野間事業所を中心に技術開発部がサポートする形で取組を開始。通常、磁選機の工程を1工程で済ませていましたが再磁選を行うことにより、廃棄していた30～40%を再生砂としてリサイクル化できることを確認。月間300tを廃棄していましたが、月間 100tが再生砂として再利用が可能となり、サーキュラーエコノミーにつながる好事例となりました。
本事例は、「新しい製品開発」ではなく、「サーキュラーエコノミー」活動として捉え、今後も廃棄物の削減/再利用に取り組んでまいります。
これからもトウチュウでは、『砂の未来』を追い求めます。



12 つくる責任
つかう責任



めざす姿

環境負荷低減製品の拡販

トウチュウの主力事業の一つ『RCS』事業。作業環境負荷低減のRCSを拡販し作業環境だけでなく、廃棄物の低減、珪砂の再生利用にもつながり、人体影響、省資源化、廃棄物の削減に貢献します。

活用資源

正:営業本部
副:RCS事業部

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
12.4	環境負荷低減 製品の拡販	速乾性水性塗型剤の拡販	360トン切替	～2030年
12.5		環境負荷低減樹脂の拡販	360トン切替	～2030年
		作業環境対策RCSの拡販	5件	～2030年

※RCSとは、レジンコーテッドサンドの略称です。

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2024年度
速乾性水性塗型剤の拡販

141t

※目標360t拡販

■2024年度
環境負荷低減樹脂の拡販

253t

※目標360t拡販

■2024年度
作業環境対策RCSの拡販

11件獲得

※目標5件獲得

Pick up!

環境負荷低減製品の拡販

●速乾性水性塗型剤の拡販

前年度(2023年度)と比較し66トンの増加が確認され、大手のお客様からの導入が目立っています。一方で、中小企業への拡販が進まない理由として、乾燥設備の設置が条件となり、その設置がコストアップの要因にもなっている点が挙げられます。そこで現在、中小企業のお客様が導入を進めやすくなるよう、簡易的な乾燥設備でも速乾性水性塗型剤への切替が可能な提案にシフトし、導入促進とコスト面での負担軽減を目指しています。

●環境負荷低減樹脂の拡販

2024年度では、ノンホルムアルデヒド樹脂の定着が進み、大手企業に加え、東北エリアの中小企業での切替も加速しました。この変化の背景には、お客様の「作業負担軽減」に対する意識の向上がありました。また、通常製品よりも安全性が高いという点が広く認知されたことで、導入が促進され、さらなる拡販に繋がっています。

●作業環境対策RCSの拡販 ※高易崩壊RCS、低臭気RCSを含む

高易崩壊RCSは、通常製品と比較して鑄込み後の製品取出しに要する時間を大幅に短縮する効果을上げています。その結果、人件費の削減にも寄与しており、製品の価格がやや高額である点を補う利点となっています。また、臭気の抑制効果も高く、住宅密集地に工場を構えるお客様からは、住民からのクレームが減ったという報告を受けています。このように高易崩壊RCSは、コストと効率性、環境面でのメリットを兼ね備えた製品として評価されています。

■環境負荷低減製品の拡販は、営業本部が中心となり取り組んでいます。この他にも、熱を発生させる『工業炉』に対して断熱効果のある『断熱材』の取り扱いを開始しました。この断熱材は、カーボンニュートラルの観点から効果が期待されるだけでなく、作業員からは『炉周りの体感温度が下がり、作業がしやすくなった』という評価を得ています。これにより環境面、作業環境面、両面の改善に寄与しています。



既存の大型炉

10 人や国の不平等をなくそう



活用資源

経営サービスセンター、
半田特別支援学校、
春日井高等特別支援学校

めざす姿

障がいを持つ方の採用及び 職場体験の場提供

生まれつきや事故等により障がいを持つ方に対し、採用を視野にいたした職業体験の場を提供します。未就業の障がい者の方が、働く場所を提供することで収入を得て生きる術を習得し自立するための一助となることで社会貢献を行います。

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
10.2	採用	障がい者の採用 (パートタイマー含む)	10名採用	～2030年
	障がい者に対し 就業体験の場の提供	就業体験の場 提供数	10名受入	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■2024年度
障がい者の雇用(パートタイマー含む)

4名採用済

※目標10名採用

■2024年度
就業体験の場 提供数

提供4名

※目標10名採用

Pick up!

『障がい者の雇用』『就業体験の場 提供』について

2024年度は、2名の採用が実現。2030年までに10名目標に対し、現在まで4名の採用となりました。これにより令和6年4月から障がい者の法定雇用率が2.5%へ引き上げられましたが、この基準も達成しました。

『障がい者の正社員化』の制度開始

今回、引き上げられた法定雇用率達成だけでなく、もう一つ将来の障がい者雇用につながる事がトウチュウ社内で達成しました。

それは、『障がい者の正社員化』です。2021年3月に春日井高等支援学校から入社した渡辺峻也さんは、「正社員になりたい」との意思が強く本人からの申し出があり、2024年度の期中に『障がい者の正社員化』に向けた制度整備を開始。2025年3月に渡辺さん本人と総務人事部とで面談を行い本人同意の上、2025年6月から正社員となる予定です。



『渡辺峻也』さんへインタビュー

現在の渡部峻也さんの業務は、野間事業所にて珪砂を運ぶフレキシブルコンテナの準備を担当しています。とても体力が必要となる業務でもあります。このような現場でも黙々と作業に取り組み、フレキシブルコンテナの整理に取り組んでいます。野間事業所の仕事も慣れてきている印象です。この職場には、渡辺さん以外にもう1名障がい者の方が勤務を行っております。

渡辺さんからは、野間事業所の皆さんは親切で働きやすい環境とコメントしていました。障がい者の方にとって、何でも相談できる職場環境は大切なことに気づかされました。今後も障がい者の方が働きやすい環境を整え、多様性を尊重しより豊かで調和の取れた会社を目指してまいります。



野間事業所
渡辺峻也さん

5 ジェンダー平等を
実現しよう

めざす姿

働きたいと思っている女性の
雇用機会を増やす

男性中心の鋳物／珪砂事業という枠組みを壊し、『女性の特性を生かした働き甲斐ある製造業を目指す』ことを掲げ、女性の雇用機会の創出、女性管理職の登用を目指したキャリアアップの仕組み構築。女性が働きやすい社内環境の整備を行い、誰もが平等に活躍できる場の提供に取り組みます。

活用資源

総務人事部

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
5.1 5.4	働きたいと思っている 女性の雇用機会を増やす ※社内女性社員比率 20%	保育、介護に対する 社内制度の充実	取組中	～2030年
		女性の特性を生かした 業務環境の整備	取組中	～2030年
5.1 5.5	女性社員に対する 適正な評価を推進する ※管理職比率 10%	性別に左右されない 人事評価の仕組み整備	取組中	～2030年
		女性の特性に合った キャリアアッププランの構築	取組中	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■ 2024年度

トウチュウにおける女性社員比率

14.2%

※2023年より 0.2P減少

■ 2024年度

トウチュウにおける女性管理職比率

7.7%

※2023年より0.7P増加

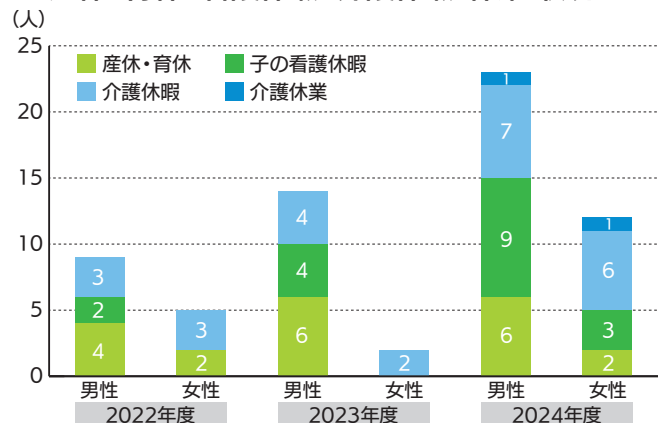
Pick up!

働きたいと思っている女性の雇用機会を増やす

2024年度は、女性の社員比率については、2023年度比 0.2ポイントの減少となりましたが、『トウチュウにおける女性管理職比率』が 7.7% (前年比0.7P増加) となり、「性別に左右されない人事評価の仕組整備」が前進した結果となった総務人事部在籍としては、初の課長資格を有する社員が誕生。また外国人でもあり、今後トウチュウ社内にて外国人の雇用にも繋がり、ダイバーシティ活動の進展にも繋がった年となりました。

また、『保育、介護に対する社内体制の整備の充実』については、2022年度から2024年度までの取得実績として、2024年度は27名の従業員が制度を活用。女性の社会進出につながる取組でもあるため、今後も従業員に対し制度の啓蒙や充実を図ってまいります。

産休・育休・看護休暇・介護休暇/休業 状況



10 人や国の不平等をなくそう



めざす姿

外国人への就業の場創出

自国の情勢悪化等により日本で働きたい、または、日本の技術等のスキルを得たいといった意志を持つ外国人に対し、就業の場を創出し、トウチュウにおける珪砂の知識やアルミを素材とする鋳物での部品製造、鉄やステンレスを原料とする鋳造品の技術を得る環境を整えていきます。

活用資源

経営サービスセンター

メイン(サブ)ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
10.2	採用	外国人の採用(新卒含む)	10名採用	～2030年
	外国人に対する職業体験の場の提供(新卒含む)	就業体験の場 提供数	10名受入	～2030年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■外国人労働者雇用の推移
【2024年累計】

7名採用

※目標 10名(2030年までに)

■就業体験の場 提供数

29名へ提供

※目標 10名(2030年までに)

Pick up!

外国人への就業の場創出

2024年度は、外国人の就業の場創出には、新たに3名の採用に繋がりトータルで7名採用となりました。2030年までの目標の達成に近づいた年となりました。これに加え、外国人雇用を優位に進めることにつながる社内制度が整備された。それは、外国人労働者に対する正社員化の仕組みです。外国人労働者に対する正社員化の仕組みができたことにより、製鋼事業所にて働いているブラジル人3名が、正社員への登用に繋がりました。正社員に登用された一人である、遠藤カチアネさんに話を伺うと、正社員化のメリットとしては、『安定した生活につながる』と発言しています。日本はブラジルと比べ治安がよく遠藤さんは、永住権も取得しており、日本での生活を今後も続けることを想定していました。今回の正社員となったことで、業務上の成果に対し評価される人事考課の対象となり、不安もある一方で、自分自身の強みである人材育成を磨き、トウチュウに貢献できる人材になりたいと力強く語っていました。今後もトウチュウでは、外国人労働者の職場環境整備に取り組んでまいります。

■トウチュウで働いている方の国籍



ブラジル



ベトナム



台湾



中国



インドネシア



4 質の高い教育を
みんなに

活用資源

総務人事部、
メンテナンス統括部、
品質保証部

めざす姿

問題解決できる人材育成 QC活動手法の醸成

老朽化設備の修繕や、エネルギー効率を高めた設備の新設等、工場内においては、様々な課題が発生します。そのため、課題達成、問題解決できる人材を育成するため、QC活動の手法を学ぶ場を構築。その上で設備修繕、新規設備導入に取り組むことができる人材についても同時に育成します。

メイン(サブ) ターゲット	自社取り組み内容	業績達成目標		
		社内指標/指針	数値評価	期間
4.4	QC活動の手法の醸成	階層別教育内 QC活動 教育の実施(計6回)	100%完了	~2028年
	設備人材の育成 (自主保全士取得)	保全研修センター 教育の実施(計18回)	100%完了	~2028年

自社取り組み内容の現在の進捗状況

■ 2024年度
QC活動教育

10回実施

※目標 計6回実施

■ 2024年度
保全研修センターでの教育実施回数

59回実施

※目標 計18回実施

Pick up!

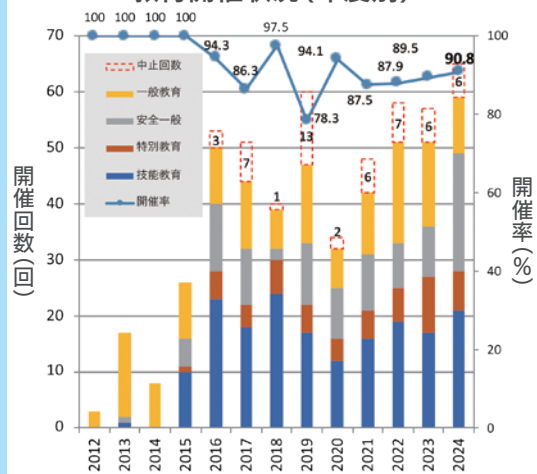
めざす姿：問題解決できる人材育成/QC活動手法の醸成

トウチュウでは、自主保全センターを開所し、2012年より保全マンの育成に努めてきました。2024年度には教育の開催回数が59回に達し、開催率も90.8%を記録しています。特に『安全一般』の開催回数は、2023年度比で2倍以上の伸びを示し、教育内容の充実が図られました。さらに、ベトナム系従業員向けの危険体感教育が中心となり、安全意識の醸成にも寄与しています。

今後の『めざす姿』へのアプローチについて

2023年度から『2030SDGsゲーム』を新入社員及び女性研修に導入し、2024年度には80名が受講。これまで合計173名が研修を修了しました。これによりトウチュウ全体の受講率は31.1%に達しています。2025年度には、アルミ事業所が全従業員への『2030SDGsゲーム』研修終了を目標に、CN推進部と連携を強化し、取組を進めています。同事業所では若手社員によるプロジェクトチームが発足し、黒柳事業部長と熊谷所長の指導のもと、事業継続のための計画立案・実行・振り返りを実施しています。これにより、従業員が業務を“自分事”として捉える意識の変化が生まれています。さらに今後、2050年カーボンニュートラルゲームを社内に取り入れ、SDGs活動だけでなくカーボンニュートラル推進のための研修も拡大していく予定です。

教育開催状況(年度別)



今後の目標 トウチュウが目指す姿

トウチュウの始まりは、現在の新南愛知カントリークラブ周辺で、珪砂を見つけたことから始まります。

今まで「ただの砂」と思っていたものが、初代社長の「気づき」により、鋳物製品づくりに必要不可欠な『珪砂（野間砂）』の発見に繋がりました。野間砂は、当時の工業製品を鋳造で作るうえで幅広く活用され、自動車メーカー以外で初めてトウチュウが『再生砂』の製造に取り組み、資源小国 日本において、『持続可能』につながる鋳物砂リサイクル事業を構築しました。

その後、国内珪砂だけでは日本の工業が停滞してしまうことをいち早く感じ取り、海外珪砂に注目。国内珪砂、再生砂、海外珪砂をバランスよく用いることで、安定的に珪砂を供給し日本の鋳造業を支えてまいりました。

当社スローガンである 「いつも砂夢THING (something) NEXT "THE NEW"」は、新しい商品や新しい可能性を追求したり、新たな事業基盤を作る

ことを意味しています。ただそれだけに留まることなく新しい気づきや「つながり」、新しい仲間など、これらも含めて「何か新しいもの」を探究することが、大切であると考えています。

そのため、「つながり」や「自分も支点（世界ともつながっており、自分自身も世界に影響を与えることができる）」に気づかせてくれる2030 SDGsゲームを階層別教育に導入し、「自分さえ良ければよい」ではなく、「自分もいろいろな問題に関わっており、自身も影響を与えられる」発想に従業員一人ひとりを変革してまいります。また、障がい者の方、女性の方、外国人の方とともに働き続けられる会社となることにも取り組んでまいります。

『珪砂』につながる、あらゆるモノやコトに目を向け、新しい視点や新しい仲間をつくり、新たな仕組みや世界を創り上げ、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

